

～榎本其角の句に滑稽を見る

牛にのる嫁御落すな女郎花

この時代にはこんな風な嫁入りがあった。
女郎花の咲いている道をそろりそろりとゆく一行。
嫁御落すなとユーモラスにうたっている。

いが栗に袖なき猿のおもひ哉

こんなにある栗。いがを剥いて食べるのには
猿も限界がある。袖でもあったら持ち帰って
ゆっくり食べることが出来るのにと
猿の気持をユーモラスによむ。

鴉鳴くや赤子の頬を吸ふときに

「むすめ食ひぞめに」とある句
かわいくてたまらず ほっぺにチュ。
キーッ キーッと啼く鴉の高い声がまじるので滑稽味が。